

## 新入生の皆さんへ

学長 森 康俊

新入生の皆さん、関西学院大学へのご入学おめでとうございます。教職員・在学生を代表してお祝いの言葉を述べさせていただきます。また、ご家族の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

2020年春から続いてきた新型コロナウイルス感染症への日常的な対応も、まもなく一定の区切りを迎えようとしています。もちろん、引き続き注意を怠ることのないようにすることが大切ですが、社会生活全般、とりわけ学校での生活様式に見られた各種の制限は緩和されていきます。皆さんには、是非この開放感を胸に、大学生活をスタートして欲しいと思います。

一方、日本を取り巻く国際情勢、地政学的な環境は、現在とても危うい均衡の中、なんとかぎりぎりのところで秩序を保っているように見えます。安全保障上の懸念は、私たちの平穏な日常生活の背景に静かに存在しています。確かに、新型コロナウイルス感染症という世界的な公衆衛生上の危機はようやく一段落を迎えましたが、いつまた未知なる感染症や生物テロなど国際社会の脅威となる事案が発生するかもしれません。

こうした閉塞した状況から脱却を目指すにあたって、明るくポジティブな社会的指標を探すことは、現実的には難しいのが実情です。ヒト、モノ、金すべてにおいてです。

人口減少社会の問題が話題にのぼらない日はありません。私たちの社会では、60歳以上の人口が今後30年間は維持もしくは微増が続くのに対し、59歳以下の人口は15年ごとに1000万人という前代未聞の勢いで減少していきます。

モノの世界に目を転じてみると、今世紀に入り Google、Amazon など G A F A と呼ばれる巨大プラットフォーマーが世界のモノとサービスの世界を席卷し始め、これまでのビジネスに取って代わりました。彼らは、需要と供給、つまり生産者と最終消費者をダイレクトにかつ同時に、しかも大量に結び付けるというビジネスモデルで流通や販売の姿を変容させ、これまでの経済社会の有り様を変革していきました。皆さんが日々、楽しんでいる音楽、映画、ゲームなどのコンテンツは、パッケージとして所有するというコレクター型の文化形態からクラウド化され、その都度利用するスタイルとなりました。

そうした変化の中で、お金は広くあまねく存在するのではなく、以前にも増して偏って蓄積されるようになりました。平均給与は、2008年のリーマンショックでいったん落ち込み、直近では回復傾向にありますが、バブル経済が崩壊した1991年から停滞が続いており、まだ30年前のレベルに戻っていません。

この春、大学に進学された皆さんには、現在の日本と世界をとりまく環境を、まず自分自身で整理し、理解してみてください。忙しい日々の生活の中で、わずかな変化を目や耳で感じ取ることは難しいですが、皆さんがこの大学を卒業する時には、今日とは確実に違う世界

が実感できるはずです。

関西学院は、1889年（明治22年）に、アメリカ南メソジスト監督教会の宣教師で初代院長である W.R.ランバス博士によって神戸の原田の森に創設されました。建学の精神としてキリスト教主義に基づく全人教育を掲げています。また、初代学長の C.J.L ベーツ先生はスクール・モットー “Mastery for Service”（奉仕のための練達）を提唱されました。ベーツ先生は、“Mastery for Service”の言葉について次のように書かれています。

「我らは弱きを欲しない。強からんこと、主たらんことを願う。しかし我らが主たらんと願う目的は、己れ個人の富を積むことではなく、世に仕えることでなくてはならない。」  
ベーツ先生は、自己を修養するために強くあれと述べられています。自分の利益のためだけでなく、世界人類のために自分を鍛え強くあれ、と訴えられています。

皆さん、是非とも関西学院大学在学中に自分自身にチャレンジし、自己を鍛え、世界に羽ばたいて人類の幸福に貢献するという「高い志」を持った「Mastery for Service を体現する世界市民」に育ってほしいと願います。

ご入学を心からお祝いいたします。